

新潟県中越沖地震に対してのグリーンピースの声明

新潟県中越沖地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

とりわけグリーンピースは、東京電力柏崎刈羽原子力発電所の深刻な被災状況に大きな関心を寄せています。すでに報道された変電設備の火災や放射性物質の環境放出を含め、今後も制御棒の脱落、原発直下型の大規模余震といった新たなリスクが予想されます。

グリーンピースは原子力資料情報室の協力を得て、緊急対応チームを柏崎現地に派遣し、放射能測定をはじめとする実態調査を行います。今後の報告に注目してください。

今回の地震は“想定外”という常套句で片づけられがちですが、設計時の予測を超えた地震が現実となり、原発直下にも活断層の存在が確認された以上、7基の原発すべてについて原子炉設置許可そのものを見直す必要があります。もともと立地調査が建設ありきで進められ、専門家の警鐘に耳を傾けずに、地震の規模と活断層の位置を原発立地が認められるよう甘く査定した作為的ミス of 側面も見逃せません。また、この点は日本の他の原子力発電所にも当てはまります。この際、すでに柏崎市から運転停止命令が出た柏崎刈羽原発はもちろん、全国55基の原発と六ヶ所核燃料サイクル施設について、耐震基準の根本的な再評価を行うように求めます。そして中部電力浜岡原発など、とくに耐震性に問題のある施設は運転を停止すべきです。

これまで事故や故障を知らせない、隠すという姿勢が強かった電力会社の報告では、7基の原発がどんな被害を受けたのか明らかではなく、地域住民も国民全体も安心できません。放射能災害の大きな危険を伴う原子力発電は、地震列島ともいえる日本にふさわしい技術ではありません。国民生活の根幹に関わる電力供給と地球温暖化対策は、災害に強い分散型の自然エネルギーと、徹底したエネルギー利用効率化(省エネ)によって進めることを、グリーンピースはあらためて提言します。

グリーンピース・ジャパン事務局長

星川淳